

大学院生の紹介



博士前期課程
保健看護管理領域
(保健看護教育)
長田 民子

県立病院勤務
認定看護師

私は現在県立中部病院に勤務しています。救急看護認定看護師として救命救急センター（E.C）での実践に加え、院内における指導、相談を担っています。E.Cでの現場教育（OJT）、院内での集合教育、委員会での委員教育は私の役割のひとつです。教育は看護の質を上げ、患者、その家族により良い看護を提供することにつながる重要な役割だと考えています。

しかし、私の教育に関する知識は認定看護課程でわずかに学んできたものです。認定看護師としての十年を振り返ると、自分自身が行ってきた教育を振り返る余裕がなく、次に活かす事もできませんでした。また、現場における課題解決の方法として、勉強会を計画するのですが中々実現できず、アプローチの仕方に問題があるのではないかと落ち込んだこともありました。

そこで、「教育について基礎から学んでみたい」と考え、平成25年度沖縄県立看護大学大学院保健看護管理領域（保健看護教育）に入学したのです。授業では他の院生と共に意見を述べ合うなかで自分自身の考えをまとめ、他者の意見・考えに共感し、ある時は異議を唱えながら、切磋琢磨し学んでいます。また、単に歴史や方法を学ぶにとどまらず、人間本来の姿を理解すること、対象の意識に働きかける教育が大切であることを認識しました。

大学院入学の目的・意思を忘れることなく人間として成長しつつ学問に励み、今後の看護活動に活かしていきたいと考えます。



博士前期課程
島嶼保健看護領域
(包括的保健看護)
新里 裕子

県立病院勤務
看護師

私は、現在沖縄県立南部医療センター・こども医療センターに勤務しながら、本学の博士前期課程島嶼保健看護領域で学んでおります。

私が沖縄県立看護大学大学院を志した理由は、看護師として経験を重ねる中、看護や治療に対して「これでよいのか」と考える場面が増えたことがひとつです。また、医療チームの一員として、適切な看護実践を行う場面において自身の基礎知識不足を痛感したからです。いつの間にか情性で仕事しているのではないかという怖れさえも抱くようになりました。そこで、大学院で学ぶことにより、あらためて経験をふりかえり、答えを模索し、これからの看護実践へ活かしたいと考え進学を決意しました。また、理解ある上司の強い勧めもありました。

大学院で学ぶことは実際、自主性がかなり求められます。自身の課題解決に必要な知識・技術の習得に向けて主体的に学んでいる途中です。学んだ知識を、今までの看護実践の場面に反映させてみると、こういう方法もあったのかと視点が変化し看護の実践の場面が生き生きとよみがえってきます。学習することの醍醐味かと思えます。

三交代の勤務をしながら学習することは時間の調整や体力的に大変ですが、職場の理解と長期履修制度を利用しながら、これからも学んでいきたいと思えます。



博士後期課程
島嶼保健看護領域
與座千代子

県立看護大学勤務
大学教員

私は以前、小規模離島で保健師として働きながら沖縄県立看護大学大学院博士前期課程に在籍し、指導教員の助言を受け、看護実践上の課題の改善に取り組んでいきました。また、課題研究においては、島民と共に島全体の子育て支援計画を策定していくアクションリサーチに取り組みました。

現在は島嶼保健看護領域の博士後期課程に在籍しています。これまでの経験を通して、島民の健康を支える看護職者への支援の重要性を感じたため、小規模離島の看護職者に必要な能力や教育についての研究に取り組んでいます。小規模離島という小さなフィールドですが、そこでの保健看護の研究成果や実践は県内だけでなく世界にも発信していける可能性を秘めています。

研究の魅力は、未開拓分野を開発し、看護実践の改善につなげることができるところにあります。このように、研究に関心のある方に志願していただき、共に研究していけることを期待しています。

沖縄県立看護大学大学院年度別入学生状況

(単位：人)

		出身		性別		入学者計
		県内	県外	女性	男性	
平成16年4月入学生 (1期生)	博士前期	5	1	5	1	6
	博士後期	2	0	1	1	2
平成17年 (2期生)	博士前期	5	4	8	1	9
	博士後期	0	2	2	0	2
平成18年 (3期生)	博士前期	6	0	6	0	6
	博士後期	1	1	2	0	2
平成19年 (4期生)	博士前期	7	0	6	1	7
	博士後期	0	2	2	0	2
平成20年 (5期生)	博士前期	5	2	7	0	7
	博士後期	2	1	3	0	3
平成21年 (6期生)	博士前期	8	0	7	1	8
	博士後期	4	0	3	1	4
平成22年 (7期生)	博士前期	9	0	9	0	9
	博士後期	3	0	3	0	3
平成23年 (8期生)	博士前期	6	0	6	0	6
	博士後期	1	1	1	1	2
平成24年 (9期生)	博士前期	8	0	8	0	8
	博士後期	1	0	1	0	1
平成25年 (10期生)	博士前期	9	0	9	0	9
	博士後期	2	0	2	0	2
平成26年 (11期生)	博士前期	11	0	9	2	11
	博士後期	1	1	2	0	2
合計	博士前期	79	7	80	6	86
	博士後期	17	8	22	3	25

※平成21年度、22年度、24年度及び25年度は、大学院GPによる入学者を含む

